

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE札幌



重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2014(ver.1.3)

1 建物概要		BEE	1.1	BEEランク	B ⁺
建物名称	円山動物園(仮称)ゾウ舎	総合評価 ★★★★★			
建物用途	集会所				
延床面積	4,108.62 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー ★★★★★	<p>省エネルギー性能: 5.0 省資源等への取組: 3.0 緑化への取組: 5.0 雪処理: 5.0</p> <p>この建物は特に 緑化への取組 が優れています</p>
	省資源等 ★★★★★	
	緑化 ★★★★★	
	雪処理 ★★★★★	

3. 設計上の配慮事項とCASBEEスコア		合計 14点 / 24点	
A 省エネルギー		合計	14点 / 24点
Q1 温熱環境	スコア 1.0	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア 3.0
Q1 光・視環境	スコア 0.0	LR1 自然エネルギー利用	スコア 2.0
		LR1 設備システムの高効率化	スコア 6.0
		LR1 効率的運用	スコア 2.0
B 省資源等		合計	14点 / 23点
Q2 耐用性・信頼性	スコア 1.0	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア 5.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.0	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア 1.0
		LR3 地球温暖化への配慮	スコア 3.0
		LR3 地域環境への配慮	スコア 3.0
C 緑化		合計	10点 / 16点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 2.0	LR3 地域環境への配慮	スコア 2.0
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 5.0		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.0		
D 雪処理		合計	3点 / 3点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア 2.0

4 設計上の配慮事項		
A 省エネルギー		
<ul style="list-style-type: none"> ・外断熱を採用し、冬季間の屋内側躯体蓄熱により空調負荷の低減を図った。 ・トップライトを採用し、屋間の照明負荷の大幅な低減を図った。 ・屋内空間は、敷砂のなかに繁殖する好気性菌による自然な脱臭効果を活用することで、機械脱臭を設置せず、省エネルギー化を図った。 		
B 省資源等	C 緑化	D 雪処理
<ul style="list-style-type: none"> ・ゾウプールに循環ろ過システムを採用し、水資源の節約を図った。 ・屋外放飼場内の砂止めなどに、今回工事で伐採した樹木を再利用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地周囲にある既存樹木の大半を保存し、建物の背景緑地として利用した。 ・屋外放飼場の周囲に樹木を植樹し、樹木の隙間からゾウを覗き込むような観覧空間とした。 ・屋根の一部を緑化し、緑豊かな周辺環境と調和する建物とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無落雪屋根とし、建物周囲に建物屋根からの雪が落ちることのない建物とする。 ・建物周囲、放飼場周囲に十分な巾の通路を確保し、除雪しやすさに配慮した。 ・主要な出入口は北西の冬季卓越風が吹きつけない方向に設置し、冬季間の扉前吹きだまりを軽減するように配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される